

新しいカーテンの吊り下げ方

このたびは、弊社製品をお選びいただき、誠にありがとうございます。はじめての方でも、この取扱説明書に従えば、簡単に取り付けいただけます。

ハトメカーテン

カーテンポールへの取り付けに適しています。カーテン生地にはハトメが引き立ち、スタイリッシュな雰囲気を作り上げます。ヒダが少ないので生地のデザインをフラットに楽しめます。最初と最後のカーテン端が窓のほうに向くように一つ一つのハトメにポールを通していきま。最後のハトメのみポールの淵飾りとブラケットの間に来るように通し、カーテン端を固定します。

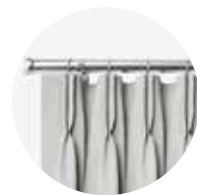


1.5倍ヒダ・2倍ヒダ

カーテンレールまたはカーテンポールへの取り付けに適しています。もっとも一般的なスタイルでヒダが多いため、カーテンの厚みが増し重厚感、存在感がでます。

カーテンフックの位置を決める

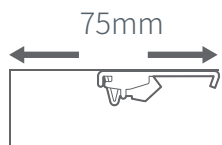
ひだ状のプリーツ裏側にアジャスター付カーテンフックがついていますので好みの位置に調整します。



カーテンフックを取り付ける

カーテンフックと同じ数のカーテンランナー（フックを掛ける部分）があることを確認します。カーテンレールの場合は末端の固定ランナーにフックを掛け、ポールの場合は淵飾りとブラケットとの間のリングに掛けカーテン端を固定します。残りを順番に掛けます。

取り付ける前に



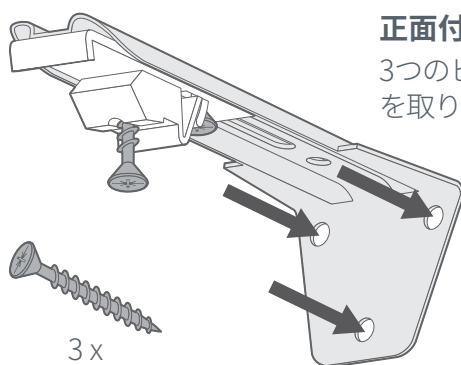
天井付け用のブラケットを取り付ける場合は、ブラケットの先端からビス付けをする壁までの幅が75mm以上あることをご確認ください。これはウェーブしたカーテン生地が窓や壁面に接触しないためのゆとりです。

両端のブラケットはカーテンレールの端から100mm側になるように設置して下さい。残りのブラケットは均等の間隔で設置します。



ブラケットの取り付け方 (正面付けブラケット)

1



正面付けブラケット

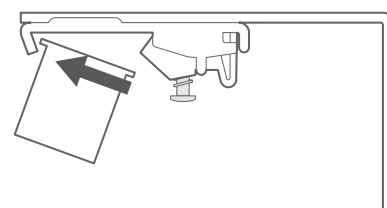
3つのビスで正面の壁にブラケットを取り付けます。

1



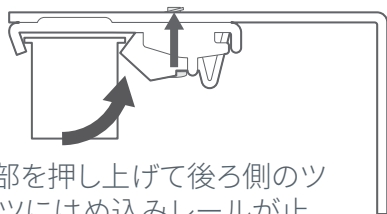
中央の固定パーツを止めてあるビスを少し緩め、前後に動くようにしておきます。

2



カーテンレールの前側のツメ(凸部)をブラケットのくぼみ(凹部)にはめ込みます。

3



カーテンレールの後部を押し上げて後ろ側のツメ(凸部)を固定パーツにはめ込みレールが止まっていることを確認してビスをしめ、カーテンレールを固定します。

アドバイス

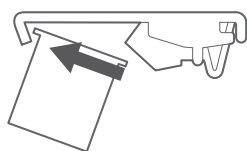
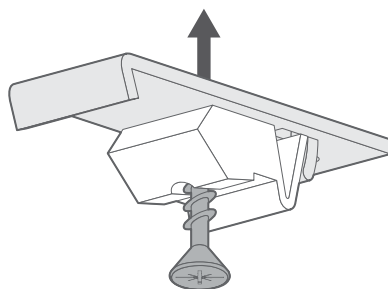
ブラケットの位置は調整できます。固定パーツの後部にあるねじをゆるめて固定パーツをスライドさせ、お好みの場所を決めたらねじをしめます。



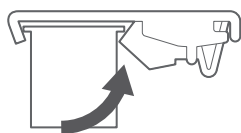
ブラケットの取り付け方 (天井付けブラケット)

天井付けブラケット

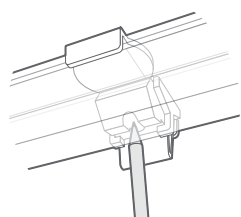
まずブラケットをレールにはめ込みます。ブラケットの間隔について上記を参照ください。



カーテンレールの前側のツメ(凸部)をブラケットのくぼみ(凹部)にはめ込みます。

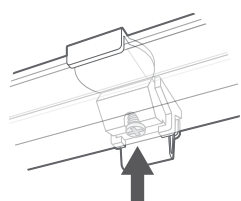


カーテンレールの後部を押し上げて後ろ側のツメ(凸部)を固定パーツにはめ込みます。



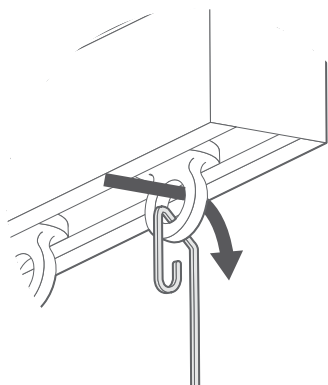
カーテンレールを取り付ける壁面に持ち上げてビス付け位置の印をつけます。

カーテンレールを横においておきます。印をつけた位置をドリルで穴をあけ、ビス用プラグを挿入します。

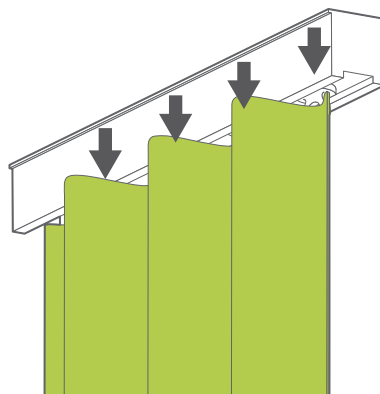


各ブラケットの穴を合わせながら1本のビスで留めていきます。

カーテンを吊り下げる

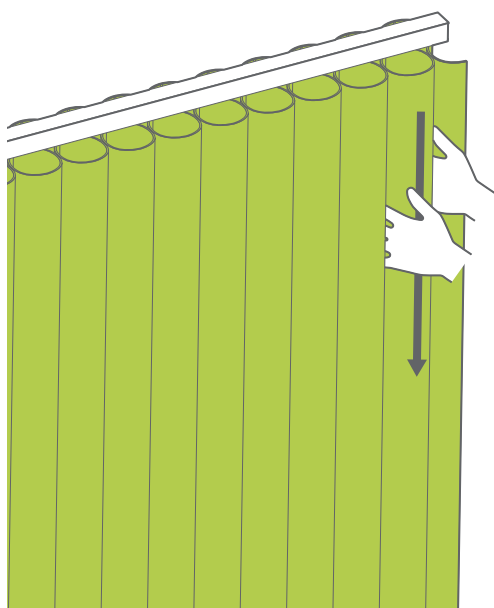


カーテンレールについているグライダーのリングにカーテンフックを取り付けます。



すべてのカーテンフックを取り付ければ出来上がり!

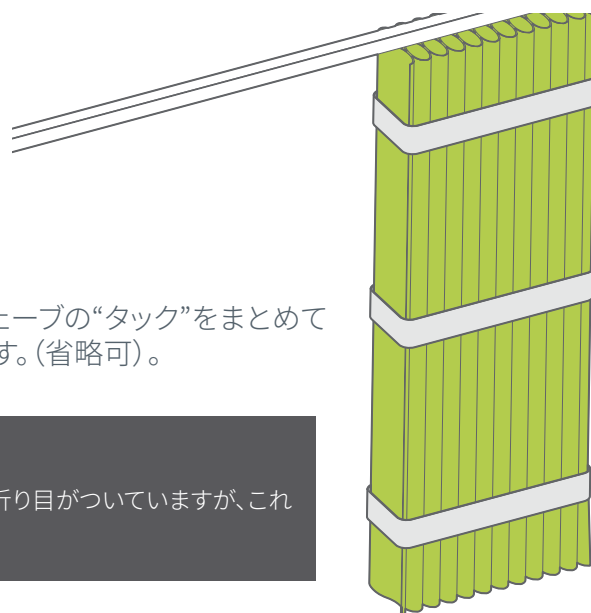
ウェーブカーテンの整え方



やわらかい布製のカーテンは少し整えることでより美しいドレープに仕上がります。

カーテンを端に寄せてまとめ、“タック”が均等なサイズになるように整えます。

ウェーブの山を上から下に向かって手で押さえながら“タック”をまっすぐに整えていきます。



プロの仕上げを求めるなら、ひもや薄い布テープで優しくウェーブの“タック”をまとめて12～24時間放置します。これで美しいドレープが固定されます。(省略可)。

アドバイス

アドバイス 折りたたんで配送されるため、開封時のカーテンにはしわや折り目がついていますが、これらは時間がたつと消えます。